

凡事徹底・活力・環境

五小だより

<http://5s.hvama.andteacher.jp>

令和 7年 9月 30日

No.7

東大和市立第五小学校

TEL (042) 562-1981

FAX (042) 590-7022

～声援を力に～

副校長 永田 健

今年の9月は非常に暑い日が続き、さらには秋雨前線の影響もあって安定しない天気が続きましたが、最近朝晩の涼しさから、秋の気配を感じるようになりました。明日からは10月です。今年の運動会も大勢の地域やご家族の皆様の前で、演技や競技に全力を尽くす子供たちの姿を参観していただけるよう、これから本格的な練習が始まってきます。

2021年の東京オリンピック・パラリンピックの開催から4年、この9月の世界陸上の競技の様子が9日間にわたって毎日放映され、たくさんの選手の雄姿を見ることができました。レース後のインタビューでは、「諦めないでよかった」、「やってきたことを出し切れた」、「結果を誇りに思う」等の言葉が聞かれ、日ごろの練習の厳しさに耐え、やり抜くだけの精神力をもち続けたからこそ味わった達成感を、この短い言葉に込めたのではないかと思います。また、満員の国立競技場の声援が選手たちを後押ししてくれたとの声もたくさん聞かれました。その中で印象的だったのが、男子400m決勝に進出し、日本史上最高の6位という走りを見せた中島佑気ジョセフ選手の言葉です。「ここに来るまでたくさん失敗してきて、自分は本当に決勝にいける存在なのか、そんな不安もありましたが、会場の皆さんの応援があったからこそ自分の殻を破れた。ここからこの勢いで一段階上げて上を目指したいです。」日本史上最高6位という結果に満足せず、次の目標に向けて語る姿はかっこよく、今後も中島選手のことを応援したくなりました。2027年の世界陸上北京大会、2028年のロサンゼルスオリンピックでの活躍が楽しみです。

規模は違いますが、小学校の運動会もスタジアムと同じような雰囲気があります。世界陸上の放送で解説をしていたシドニーオリンピック、女子マラソン金メダリストの高橋尚子さんの原点は小学校1年生の時のマラソン大会でした。途中で靴が脱げたり、転んだりしたレースでしたが、最後はトップでゴールインし、割れるような拍手と歓声を浴びたことが、その後のマラソン競技を始める原点となったそうです。その体験は一人で走るだけでは得られなかったでしょう。懸命に競技する人と、それを全力で応援する人がいて、心揺さぶるような体験が生まれるのだと思います。運動会本番まで1か月を切りました。子供たちは運動会でどんな姿を見せてくれるでしょうか。期待を込めて、全力で応援したいです。